

2021年2月19日

朝日カルチャーセンター:野外の自然観察会
「大地からのメッセージ 悲鳴を上げる街路樹」

今回の自然観察会は、いつもと視点を変えて樹木をはじめとする植物から発せられているメッセージを私たち人間が誰しも持ち合わせている「五感」を使って読み取っていきながら、今の大地の目に見えない部分の観察を行いました。

集合場所の警固公園には大きなクスノキがあります。しかしブロッコリーを大きくしたような堂々とした本来の姿はそこにはなく、樹皮はカサカサ、枝はまばらで葉の茂りもない弱々しい姿と化しています。普段は何の気なしに見ている自然も視点を変えて観察するとこんなにもダメージをうけていたのか、と参加者のみなさんも驚かれていました。

非常事態宣言下ということもあり、足早に中心部を抜け舞鶴公園方面へと向かいます。途中のお堀で水鳥の観察をしました。おもにサギ類やヒドリガモ、オオバンの姿が見られました。水色の羽がきれいなカワセミもいました。

護国神社までの道のりで元気のある木は残念ながら一本もありませんでしたが、石垣や井戸の作り方をみると、一昔前まではちゃんと土中の水の循環も考慮された建造物の置き方がみられます。そしてそれは同時に生物多様性にも繋がるやり方であることに驚きます。

街路樹として選ばれた樹木たちは木陰を作り、空気を浄化し風を弱めるなどの働きの他に、都会のビルや車や人の往来で硬く締まっていたり地下街や地下鉄で阻害された大地の通気浸透水脈を細々と支えてくれていて、枯れる寸前のその姿は今の人間中心でつくられた社会の縮図に見えてなりませんでした。

参加者:9名(引率1名)

スタッフ:大熊 轟

轟記

